

転換期における政治運営の指針

幹事長として昭和五十一年八月三十日、党主催の「夏季全国研修会」で行った講演の全文。参院選の教訓を踏まえて党改革の必要を力説

序説

党本部主催の研修会に奮ってご参加いただいた諸君を、まずもって心から歓迎したいと存じます。

論語に「少にして学べば壮にして為すあり、壮にして学べば老いて衰えず、老にして学べば死して朽ちず」という言葉があります。われわれは不断に勉強しなければなりません。とりわけ諸君のように若いときに勉強しなければなりません。何となれば人間というものは、若いときに人間としての骨格が出来上がるものであるといわれており、若いときに勉強して身につけた素材で、自らの人格が形成されるものであるからです。私のように老境に入ると、頭が砂漠のように渴きかつ散文化して、知識の吸収力や物事に對する感動の度合が、にわかには衰えを見せるものであります。勉強は吸収力の強いときにこそ精を出すことが肝心で

あると存じます。

本日のお話は、「転換期における政治運営の指針」といういかめしい題名になっておりますが、べつだん堅苦しいお話をするつもりはなく、いわば転換期における自由民主党の在り方はどうであるべきかについての考えを申し上げ、諸君のご参考に供したいと存じます。

参議院選挙の教訓

(1) 参議院選挙の結果

まず話の順序として、この夏行なわれた参議院の選挙の結果から、私どもはどういう教訓を汲みとるべきかについて申し上げます。

この間の参議院選挙における各党派別の当選者を昭和四十九年の参議院選挙のそれと比較すると、自由民主党がブラス三、社会党がマイナス一、公明党は増減なし、民社党はプラス一、共産党はマイナス八ということになり、社会党と民社党は相殺され、共産党の減が新自由クラブ四と社市連一、それに自由民主党ブラス三に移っております。これはいわば微調整というもので、政治の基盤にいわば大きい地殻変動はなかったともいえようかと思えます。

一方、党派別の得票率ですが、前回に較べて、全国区で自由民主党がマイナス七%、社会党がプラス二・二%、公明党はプラス二・一%、民社党がプラス一・二%、共産党がマイナス一%となっており、地方区では、自由民主党がプラス・八%、社会党がマイナス・一%、公明党がマイナス六・四%、民社党がプラス・一%、共産党がマイナス二・%、となっており。

自由民主党の全国区、公明党の地方区の激減は、何れも両党が公認候補を極力絞るといふ戦術上の方針が大きくひびいているので、その点を除けば党派別の得票率においても、これまた微調整にすぎない結果に終わったことを示しております。

(2) 投票結果の示唆するもの

こういう選挙の結果をどのように受け止めるべきかという点であるが、まず有権者が政局のはげしい変化を望まず、現状に大きい不満をもっていない、いわば現状肯定的な意識をもっているものとみるべきではないでしょうか。

さらにこのことは、野党のいう野党連合政権という観念論に冷い反応を示したものと受けとることができま。いこの選挙においても、野党の中には、すぐにも反自民の野党連合勢力をつくり上げて、自由民主党政権にとって代わ

ることをうたい上げる党があつたが、今回もその例外ではありませんでした。野党連合勢力というのは、それを結成する場合に社共と社公民の何れを軸とするのか決めていないし、また決められそうにもない。全野党連合の形でその結成をはかるというのはいっそうむずかしい相談でありましよう。ところが選挙になると、この古い歌は、いつの場合でも無造作に歌われてきました。有権者はその都度、そうした古い歌には一向に耳を藉さなかつたし、今回の場合もそうであつたように見受けられます。

さらに今回の選挙では、新自由クラブをはじめ社市連、革自連、女性党なども選挙戦に打って出て、すこぶるカラフルな選挙になつたが、有権者はこういういわば素人的な政治活動に対しても冷たい反応を示しました。

(3) 無党派層の肥大化

ただ一つ、私どもが注意しなければならないことが静かに進行中であります。最近の世論調査によると、支持政党なしとするものが全有権者の二〇%から四〇%に急に上昇しております。ここにいう無党派層の急激な肥大化は、われわれがよほど注意しなければならぬ傾向であると思ひます。

政治学者は、いわゆる無党派層を形成する実勢力は、大きく分けて次の三つがあると言っております。一は主婦で

あり、二は退職者であり、三は若者であるといふのです。主婦はこれまで日夜家事と育児に追われ、情報を十分摂取し消化する暇がなかったようです。ところが家庭の電化をはじめ、省力的な機械や設備が普及しましたので、主婦はいまや情報を豊富に摂取できるばかりでなく、それを消化する時間を持つようになってきました。その結果、政治について主體的な意見を持ち、政治に対するその影響力は、その数の優位と相まって益々強いものになってきました。しかし、この主婦の願いや憂いに有効適切に応えている政党はまだないといふことであります。

次は退職者であります。わが国の高年齢社会化の進展とともに、われわれは定年後における第二の人生をどう生き抜くかという切実な大問題に直面することになってまいりました。そしてその退職者の数はこれから二十五年間ぐらいは増すばかりであります。この人たちの願いと憂いに応えることができている政党もまだみつからないといふのが現状であります。

次に若い青年男女であります。日本の二十代の若者は、優生学的にみたいへん秀れているといわれ、意識状況もまたおおむね健全であると申されております。NHKは、昭和四十七年と五十一年に、十八歳から二十二歳までの若

者の意識調査をしております。これによると、友達とか坐禅といふようなものが、この四年間に青年にとつて魅力を増してきております。保守、革新の何れの政権を望むかについて、革新待望論から保守待望論に向けて見事に逆転を示してきており、若者は全体として保守的傾向を強めているように見受けられます。しかし、それが直ちに自由民主党政支持に直結するということではなく、彼らは既成の政党に魅力を感じているようには思われなないといふのが実情であります。

(4) 残された教訓

参議院選挙が示す結果は、およそそのようなものだと思いますが、それでは有権者は、わが自由民主党に対してどういふ反応を示したかといふことについて申し上げます。結論からいふと彼らはどうも自由民主党がいいから積極的に支持しようというのではない。自由民主党にはその体質からいっても、その組織から見ても、またその政策を吟味してみても、何れも十分合格点を差し上げるわけにはまいらない。しかし、自由民主党が軸になってしつかりしてもらわなければ、政局の安定も、政策の推進もできる相談ではない。だから、自由民主党に圧倒的な支持を与えることはできないが、自由民主党の議席が過半数を割るような事

態は何としても避けなければならない。右の手でお灸をすえながら、左の手でこれを鞭撻する。いわば有権者は自由民主党に対してそういう態度をとってきたように思われます。私が有権者が示した「絶妙な平衡感覚」と申したのはそのことでもあります。

学者によると、今度の参議院選挙においても去年の暮れの総選挙においても、勝った政党はなかった。ただ、無党派層がジリジリ肥大化する結果をもたらした。しかし同時に有権者の意識は、大体において健全で、政党や政治家が自信過剰や驕慢に流れることを戒めながら、しかも政局の安定をいちじるしく失うようなこともないよう、心にくいまでの絶妙な平衡感覚をもって堅実な判断を下したと申すことができます。そして自由民主党に対しても「自由民主党よ驕るなかれ」、しかし「自由民主党の責任は重いですよ」という警告と激励を同時に与えているように思われるのであります。

自由民主党の評価

(1) 民主政治における政党の役割

私は、現代は政党政治の時代、政党による民主政治の時

代であると思います。それは世論が浜の真砂のように細分化されてくると、このままではこれを吸収消化することができるものではありません。その混沌たる中に政党が介在して、これをいくつかのキャンブに整理、区分けをする事になります。各政党は、それぞれ自らの政策を掲げ、選挙を通して優劣を争い、過半数を制した政党が政権を担当する仕組みが出来ます。これを複数政党による議会制民主政といいます。

政党は、もともと有権者の信任を受けなければやっていけませんので、その体質、組織、運営、政策何れの面においても、自ら最善と信ずるところを実現するよう努力いたします。しかし、その実現の方法は政党によってちがいます。私は、これを大きく分けて、社会を変革することをねらいとする革命的な政党と、そうではなくて、社会の在り方の根本はそのまま尊重しながら、事態の部分的な改善をねらいとする民主的な政党とがあらうと思えます。前者は自然、独善的、閉鎖的になりがちであり、後者は当然、民主的、開放的な方向に傾斜するようになると思えます。前者は党の規則や組織は厳しいもので、党に対して高度の忠誠を求めるようになるものであり、後者はそれに較べて自由で弾力的な規則や組織をもち、党自体もそんなに嫉妬的で

はたく、むやみに高度の忠誠を求めるようなことはいたしません。

(2) 自由民主党の特長と弱点

その何れが望ましい姿であるかの判定は、究極において
は判定者その人のイデオロギーにかかるものといえましょ
う。しかし、わが国のこれまでの経験によると、他の先進
民主主義国の多くもそうであるように、後者のような性格
をもった政党が、民意に投じて多くの同調者の獲得に成功
し、政権を担当し、よく時代の要請に対応力を発揮してき
たように思います。わが自由民主党は、その中でも最も成
功した事例の一つであるといつてもいい過ぎではないと思
います。革命的な政党というものは、組織も立派だし、党
規も厳しいが、専門店のように限られた人しか同調者とし
て集めることができないようになり勝ちです。

自由民主党は、まず長く政権を担当して、わが国の戦後
経営に成功いたしました。そして広い見識と豊富な経験、
さらにはバランスのとれた感覚を身につけることができ、
各界から多彩な人材を吸収することに成功しました。また
自由民主党は、最も広い裾野を持つ政党として、右から左
大企業から零細企業に至るまで、あらゆる地域、あらゆる
職域を通して広く国民各層をその同調者の中に吸収し、日

常生活の中に巧みに政治を持ちこむことに成功した政党で
あると思います。

一方、しかしながら、自由民主党の歴史を回顧すると、
党規の弛緩、考え方や行動、さらには政策の面におけるマ
ンネリズム、とりわけ数々のスキャンダルの発生に見られ
るように多くの過ちや行過ぎを犯してきました。いわば最
も人間くさい政党でもあったといえましよう。

だから自由民主党という政党は、近代的な意味で目鼻立
ちのよい政党とは決していえないし、クリーンで恰好のよ
い政党ともいえません。したがってまた国民の間に人気の
ある政党とはひいき目に見ても思えないのであります。し
かし、わが国の戦後経営は、この政党が主役になって遂行
され、まれに見る成功を収めたことは事実であります。ま
た、戦後の経営が世界的に大きい試練に直面し、遂には戦
後の経営に落伍する国々が多い中であつて、わが国は経済
のバランスとその自立の達成に成功しているが、それはと
りもなおさず自由民主党の持つ対応力の強さを示している
ものといえましよう。自由民主党はサラブレッドのような
恰好よさはもっていないが、コッテ牛のような強靱な実行
力もっている政党であるといえます。自由民主党は、そ
の意味で、わが国がもっている一つの大切な公的財産であ

るといえるし、このような政党はつくりうとしてもそんなに手軽につくることはできるものではありません。われわれは、自由民主党を大切にしなければなりません。それは自由民主党員のためであるとともに、国民のためでもあると思います。

自由民主党の改革

(1) 改革の道標

およそ政党ばかりでなく、人間のつくる組織体は不断に自己改革を進めなければ、その生命力を維持することができぬものではありません。自由民主党もその結党以来、絶えずその改革について論究を重ね、改革の実践もしてきました。今年の春からとりかかっている改革も、その一環であります。今回の改革は、去年のロッキード事件による厳しい試練を受けて、この際、これだけは何としても改めておかねばならないという切実な願いをこめてのものであります。

その第一の道標は、自由民主党を議員党的な政党から、開かれた国民政党に脱皮させようとするものであります。第二のそれは、自由民主党の組織の周辺に自由国民会議を

つくって、自由民主党員ではないが、自由社会を守るといふ共通の願いをもつ同調者を組織し、自由民主党の党勢の強化をはかるうとするものであります。第三のそれは、党費の値上げと自由国民会議の会員からの会費の受入れによる財政の民主化とその強化をはかることであり、第四のそれは、既存の派閥の解消と広報活動の強化による、党運営の民主化と活力化をはかるうとするものであります。

党を開かれた党にするためにわれわれがまず手を染めたことは、これまで国会議員と一部地方代議員に限られていた総裁選挙の権利を、広く党員全部と自由国民会議の会員に開放することで、正に画期的な改革であります。

われわれ自由民主党の所属議員の多くは、党の組織よりも自らの後援会組織により強く支えられて政治活動をやっております。後援会員は必ずしも党員ではありません。また世の中には自由民主党を理解し支持はするけれども、進んで党員にまでなるつもりはないという人も多いのであります。そうした人々を自由国民会議という名において組織化し、党勢拡張にご協力を願うと同時に、一九年一人一万円の会費の拠出をお願いして自由民主党の財政の民主化と強化の一助にしようとするねらいが、第二の改革であります。国民運動本部においては、究極の目標として全人口の

約一%を会員にお願いすることにしております。

自由民主党の財源が、その大半を少数の企業連合体に依存していることは事実であるし、これは必ずしも正常な姿とはいえません。この状態の是正は必ずしも容易ではありませんが、われわれはどんな困難があっても、その是正に真剣に取り組まねばなりません。そこで差し当たり、われわれは党費年間千円を、原則として三千円に改めることと、自由国民会議の会員に一人年一万円を会費としてお願いすることにしたのであります。

最後に党運営の改革であります。まず既存派閥の解消であります。人間は派閥的な動物で、三人集まれば二つの派閥をつくるといわれております。そしてそれは、政界だけでなく、実業界、教育界、学界、宗門、スポーツ界、芸能界その他人間活動のあらゆる面に見られる事実であります。またその分派性の強さも、特に政界においてひどいものがあるということでもないようであります。しかし、政界、とりわけわが自由民主党は天下の権を預っている政党であります。それだけに派閥的な思惑や行動が、政治運営の公正を犯すことになりはしないかという国民の懸念に対しては、われわれは謙虚な態度でこれを受け止めなければなりません。そのために既存の派閥は、ともかくも理屈を

いわないで解消することしたのであります。

もっとも派閥は情報の交換、教育や研修を通してそれなりに有益な機能を果たしております。そうした有益な機能は、これからは党が代替して行なうことにし、このように党本部主催の研修会もやっておりますし、党本部に「リバイ・クラブ」という社交倶楽部を設け、党員相互の交歓の場といたしてもいるのであります。

さらに党の広報活動ですが、これがどうもこれまで十分でなかったし、他の党に較べて見劣りがすることも否めません。われわれは政権をもっており、貴重な情報源を豊富多彩にもっているのでありますから、もっともっと質の良い情報を提供できない筈はありません。われわれは、この点にいつその努力と工夫をこらして、国民のニーズにこたえてまいりつものであります。

要するにわれわれは自由民主党を愛し、その改革を通じて、その民主化と活力化を推進し、政権政党の重い責任を十分果たしてまいらねばなりません。諸君のいつそのご精進をお願いして、私のお話を終えたいと思えます。ご清聴を感謝いたします。